

社会福祉学部

<平成30年 私費外国人留学生特別選抜>

小論文 (配点 100 点)

【出題意図】

問題に対して、自分の意見・立場を正しい日本語で表現できる力や、論証過程を通じた論理展開力をみる。

【解答例】

本稿では、障害者が望む生活を送るうえで直面する意識上の障壁(心の壁)を例に挙げ、その除去について、以下の4点から考察したい。

まず、教育の観点からは、例えば、幼児期からの統合教育や統合保育を国がさらに促進することで、可能であれば、全ての学校や保育所において、幼児、児童、生徒が障害者(児)と過ごす環境を作ることが、発達段階早期からの障害者(児)に対する肯定的な態度の形成という点から重要ではないかと考える。

第二に、ボランティアに関しては、高校生や大学生に対して、障害者(児)の施設(以下、施設)でのボランティアを高校や大学がさらに推奨することも一つの方法であろう。施設でボランティアを行うメリットが、高校生や大学生に対して十分に伝われば、施設でボランティアを行う高校生や大学生は増えていき、青年期において障害者(児)に対する肯定的な態度が形成されることにつながると考えられる。

第三に、障害者の雇用に関して、厚生労働省は、昨年、障害者雇用促進法を改正し、雇用の分野における障害を理由とする差別的取り扱いを禁止した。また来年からは、法定雇用率の算定の対象に精神障害者が加わる。こうした施策は、その施策を継続的に実施することで、制度的な障壁の除去のみならず、障害者に対する意識上の障壁の除去にもつながってくるであろう。

第四に、マスメディアを活用する方法が挙げられる。近年、パラリンピックで活躍する障害のある選手を見る機会も多い。障害者の雇用に関しても、テレビのニュースや特集をとおして、障害者の雇用状況や、障害者の雇用に関する優良な企業の事例に関する報道を、報道機関がさらに行うようにしていくことが、障害者に対する意識上の障壁の除去につながるものと考えられる。

まとめとして、一人ひとりが、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う意識を持つことが重要であろう。(786字)